



キャンパス / 東京都世田谷区 学生数 / 5,654人 創立 / 1950年
 建学の精神 / 人生は真善美を理想とすると言われるが、学校は真理行われ道徳が通る美的の所でありたい
 学部 / 経済、文芸、法、社会イノベーション
 大学院 / 経済学、文学、法学、社会イノベーション
 THE 日本大学ランキング2023 / 201+位

DP

幅広い教養および各学部・学科の専門知識・技能を身につけることで、筋道を立てて物事を俯瞰的に把握し、課題を発見・解決することができる。
 (知識・技能)

社会の諸事象について主体的かつ総合的に判断できる能力を身につけている。
 (思考力・判断力・表現力)

国際的な視野から世界と日本を見つめ、グローバル社会を生き抜くためのコミュニケーション能力を身につけている。
 (思考力・判断力・表現力)

豊かな人間性を持ち、多様な人々と協力して社会に貢献する意欲と能力を身につけている。
 (主体性・多様性・協働性)

ピアチューター制度<ピアサポーター>の活動のしくみ

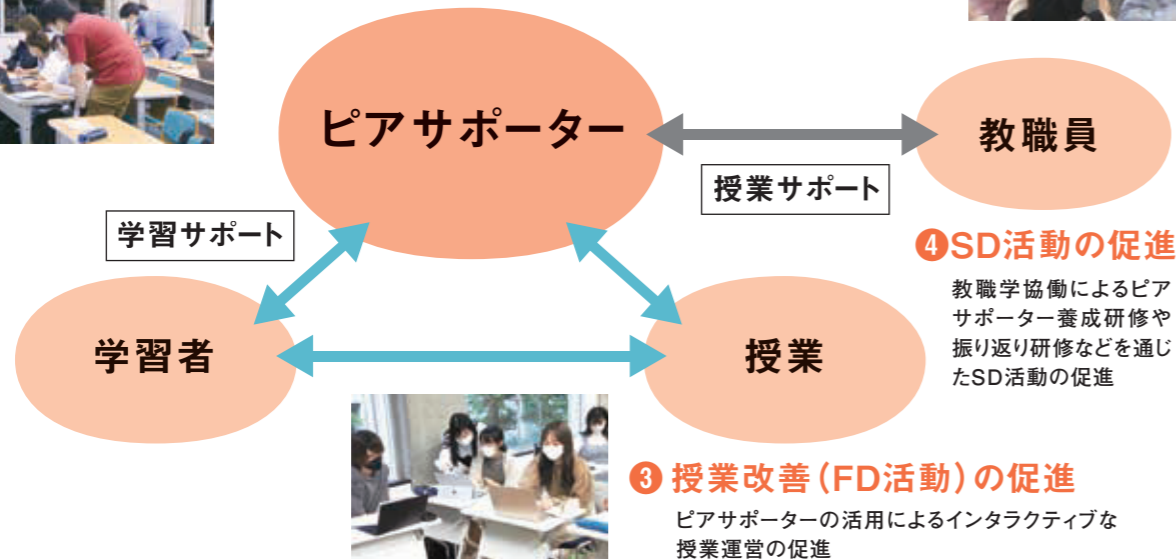
① 学習者の学びの深化

身近な先輩や同学年の仲間などの学生目線に立った支援による学習者の学びの深化



② ピアサポーター自身の成長

コーチング、ファシリテーションなどのスキル獲得およびコミュニケーション能力やコラボレーション能力の向上、そしてピアサポーター自身の人間的・社会的成長



注目

学生のやる気に火をつけサポーターの伴走をすることが、職員のよいSDに

全学生を相手にする職員こそ、実は学生により近い存在だ。特に成城大学は、愛校心の強い母校出身者や教員免許を持つ職員も多く、歴代の職員が自然発生的に学生の支援を行ってきた。図書館の運営支援をするライブラリーサポーターも、図書館の常連で、何かやりたそうな学生に、職員が声をかけたことがきっかけで活動が始まった。このような学生のやる気に火をつける職員の伴走があって、ピアチューター制度は形になった。職員にとっても、学生への働きかけは、学生への向き合い方の理解を深め、彼らの成長を目にし、熱意を高めるよいSDになっていると思う。

ピアサポーターの運営は、教育改革と質保証を担う教育イノベーションセンターの職員が担当。学生は、同センターの研修(右図)を受けて活動を始める。研修内容は、学生の声に応じて毎年改善している。同センター課長の長尾繁樹氏(取材当時)は、「学生が努力しているからこそ私たちもがんばろうと思える。今後も、彼らの声を起点に質保証に取り組みたい」と抱負を語る。

ピアサポーターの研修カリキュラム

分野	研修名		アウトプット(活動)の場
	基礎	発展	
コアスキル	①多様性の理解とコミュニケーションスキルの習得 ②ピアチューターリングに必要とされるスキルの理解と習得(基礎) ③アンサンプルのカで新しい自分になる	・ピアチューターリングに必要とされるスキルの理解と習得(発展)	・時間割相談(4月) ・ピアサポ交流会(9月) ・サポーターズフォーラム(11月)
	④ファシリテーションに必要とされるスキルの理解と習得	・在学生ファシリテーター養成研修	・授業サポート(5~7月、9~1月) ・入学準備プログラム(2月)
	⑤レポートの書き方講座	・レポートの作成支援の方法	・サポートデスク(随時)

は全員が必ず受講する

学生同士の学び合いを改革に生かす
 “教職学”協働の学びのコミュニティ

CASE STUDY

成城大学

学生が学生の学びを支える「ピアチューター」制度を中心に、“教職学”協働で学修者本位の大学づくりを進める成城大学。その背景と今後の展望を学長に聞く。



学長 杉本 義行

すぎもとよしゆき ●1983年東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程中退。1996年成城大学経済学部助教授、2000年経済学部教授、2011年経済学部長、2015年教育イノベーションセンター長、2016年副学長、2022年より現職。農学博士。

ピアチューター制度で個性尊重教育を推進

106年前、「児童中心主義」を掲げ、小学校から始まった本学園は以来、その人なりの学び方と他者の個性を尊重する「個性尊重教育」に取り組んできました。学園創立100年が過ぎた今、少人数教育を基本とし、教職員と学生の距離が近いワンキャンパスという環境を生かし、「学生中心の大学」づくりを進めています。元々、キャリア教育の支援や、図書館の運営に学生が携わっており、教職員が彼らの著しい成長を目の当たりにしたため、これを拡充すべく、個性尊重教育を学生の助け合い・学び合いという形で発展させた「ピアチューター」制度を導入することにしたのです。2016年に本企画を含む教育改革案を、文科省のAP事業に申請。

学生の声や活動が教育・運営改善の起点に

ピアチューター制度では5つの団体が活動しています。このうち授業・学習支援を行うピアサポーターは、今では多くの学生や教員が利用しているものの、当初は利用者が少ない状態でした。転機となったのは、「時間割相談会」の実施です。単位制や自由度の高いカリキュラムに慣れていない新入生にとって、時間割構築や履修登録は複雑です。サポーターが自らの経験から自発的に企画し、学生目線で解説する時間割相談会を設けたところ、大好評で、本年も8割の新入生が参加しました。教員の授業サポート利用は、コロナ禍による授業のオンライン化が進みました。ビデオオフで参加する学生への対応や、ブレイクアウトルームの運営に苦心する中、サポーター学生のファシリテーションで救われた教員が多く、口コミで利用が広まりました。ほかに、学生視点でカリキュラムの改善提案がなされたり、就活を経験した学生の意見をキャリア教育科目の運営改善に生かした

不採択でしたが、自前で翌年から本制度を始動させました。りするほか、他大学のサポーター団体や高校生との交流を行う「サポーターズフォーラム」も学生主導で実施されています。ピアチューターの活動は、サポーター自身の成長にもつながっています。私が特に印象に残っているのは、コロナ禍以前から常にマスクで顔を隠していたある学生です。おとなしかった彼が、活動を通じて積極的になり、最終的には、「ピアサポ交流会」を提案、実施するまでになりました。他のサポーターも同様です。私や教職員へ物おしせず意見を言い、進んで行動します。最初からアクティブな学生ばかりがサポーターになるわけではありません。活動を通じて大学の課題を自分事として捉え、解決に向けて主体的に動く人間へと成長するのです。今般の生成AIの登場により、大学教育は今後大きく変わっていくでしょう。AI時代に大学がすべきことは、さまざまなリアルな経験の場や機会を学生に提供し、経験から学ぶためのリフレクションを身に付けてもらうことではないかと考えます。ピアチューターの活動はまさにそれです。本学の一番の自慢は、学生です。彼らと共に、そんな学びのコミュニティをつくっていきます。

*1 大学教育再生加速プログラム
 *2 「ピアサポーター」「国際交流サポーター」「キャリアサポーター」「ライブラリーサポーター」「バリアフリーサポーター」の5団体が設けられている
 *3 日々の活動の中で感じた疑問や課題を、他大学のサポーターと共有し、解決方法を共に考え、学びの輪を広げていく交流会

取材・文 / 鈴木康介 撮影 / 岸隆子